

## 2013-2014 年度 国際ロータリー第 2820 地区

## 青少年奉仕研究会：参加報告

新世代奉仕委員会 山口洋一

◆先だっの土曜日は国際ロータリー第 2820 地区（茨城）研修会が日立で行われた。研修会はそれぞれの奉仕部門別に計画され、私が参加した研究会は最初の研究会で、青少年奉仕研究会であった。昨年までは新世代奉仕研究会で、今年度より青少年奉仕研究会と名称を変えての研修会であった。

◆11 時受付・12 時開会の研修会であったが、会場の日立は茨城南部の我がクラブにとっては遠過ぎた。2 時間もあれば十分と踏んでいた行きの時間は、各駅停車ばかりでしかも途中で列車切り離し、通過待ちと会場に着くまでに 2 時間 10 分ほどになってしまった。12 時 20 分頃であったろう。会場には座る隙もないほどの席で、一番前の席に陣取った。



◆昼食が運ばれたが最前列とあっては食べる勇気もなく、

後で頂くといって持ち帰ってもらった。この判断は間違っていた。講義の合間に数分の休憩時間があったが、弁当を持ち帰ってもらっていたのでとうとう口にできなかった。終わってからもらおうかと考えて訪ねてみたら、もう時間がたってお出しできません、とのことであった。安全面を考えると当然のことである。

◆さて、12 時から 30 分間の全体会議には間に合わなかったが、研究会の本番には最初から参加できた。新世代奉仕が青少年奉仕として第 5 番目の委員会になったことが報告され、青少年奉仕研究会としての第 1 回研究会が宣言された。これまで同様に、青少年奉仕は、インターアクト、ローターアクト、RYLA（ライラ）、青少年交換プログラムの 4 部門に分かれている。国際ロータリー日本青少年交換委員会理事長の山崎清司氏より「開会にあたって」の挨拶が行われ、それぞれの分野別に研究会が実施された。実施に先立ち、青少年奉仕カウンセラーの内藤彰氏が急逝なされたことの御報告を頂いた。

■インターアクトについては、“12 歳から 18 歳までの青少年または高校生のためのロータリー提唱奉仕クラブ、楽しく意義ある奉仕プロジェクトや様々な国際交流に参加する機会を青少年に与えるものです”と確認され、宮崎委員長が現状報告をなされた。インターアクトへの参加の要請と実体験で得られる意義について、丁寧に御説明頂いた。ただ、私にとっては二度目の研究会で、内容がパワーポイントを含め全く変わらないことへの期待薄感があった。現在 2820 地区にはインターアクトクラブが 6 校あり、インターアクトの提唱クラブになって欲しいとの強いメッセージもあった。今回は実際にインターアクトに参加しておられる高校の担当教諭による御報告を頂いたことの意義は大きかった。



■ローターアクトについては山本委員長が先に簡単な挨拶をされ、直ぐ二つのローターアクトクラブを紹介された。“ローターアクトは、18 歳から 30 歳までの青年による奉仕クラブです”という確認から始まった。第 2820 地区には現在 10 クラブのローターアクトクラブが組織されていること、そこから二人のローターアクターがこの研究会に参加され、活動内容を丁寧に発表された。お二人は、杉田純一君（土浦南 RAC）、大河原悠貴君（下館 RAC）で、支援クラブの奉仕活動では聞くことのない素



晴らしい活動状況の報告を頂いた。最後に、クラブ内にローターアクト委員会を持っておられるクラブのうち、水戸 RC、つくば学園 RC、水戸東 RC の担当会員よ

り支援クラブとしての意義や苦勞談もお話頂いた。

■ライラ並びに青少年委員会については、委員長軽部氏から、RYLA とは何か、その起源にまで触れた説明を頂き、高野氏から第 33 回ライラセミナーの実施報告がなされた。正直なところこの説明から得るものは感じ取れなかった。当クラブでは参加者の発表を例会で受けているが、その内容から受ける感動が真実であろうと認識した。なお、第 34 回のライラセミナーのテーマは、「挑戦!! ～若い青少年だからできること～」との紹介がなされた。

■青少年交換プログラムについては、青少年交換委員長の小野氏から御挨拶を頂き、例年通り石川氏からパワーポイントによる具体的な活動報告が行われた。随所に交換プログラム実施上の難しさを垣間見ることができた。小野氏もご自身が言っておられたが、委員の世代交代を促しておられる。



最後に、今回派遣される三人の中でお二人の女性の抱負を直接聴く機会に恵まれた。

◆さて、最前列に陣取ったこともあって、真剣に研修を受けることができた。写真も撮ることができた。会員増強を叫んで久しいが、会員増強には青少年奉仕クラブの育成に積極的に取り組むことの必要性も強く感じた。地域の青年会議所出身のロータリアンも多いが、ロータリーの精神に若い頃から触れているのはインターアクトやローターアクトの青少年であろう。このことは、例えば竜ヶ崎 RC と龍ヶ崎中央 RC が共同で流通経済大学に同種のクラブが設立できないだろうか、研究する必要を感じた。寝言かもしれないが!!

以上

#### 参加者雑談

長々と参加報告書を書いてしまいました。この文章は私がいつも記入している日誌帳をそのまま持ってきたものに、写真を添付したものです。会社に入社した 21 歳の頃から能率協会のダイアリーを使ってこまめにその日の出会いを記録してきました。忘れもしません 1974 年版のダイアリーのみが抜けています。その日に私は最も大切なダイアリーの入ったカバンを電車に忘れてしまったのです。

編集者生活では多くの著者と語り合う、と言うより私に対する叱咤激励の言葉だったと思っています。著者と私との年齢差は、当時 20 歳ぐらいありました。学会誌の校正をさせてもらいながら「死亡退会者」コーナーを校正するとき、ふと目に入る恩師（私にとっては）の訃報です。戦後の日本の復興を支えてこられた工学系の先生方もこの世を去られる方が多くなりました。御冥福をお祈りする毎日です。